

第4章 インフラ整備と人口増加の効果分析

4.1 分析の概要

1964年の東海道新幹線の開業以降、新幹線の路線網は各地に広がっており、我が国を縦断する幹線的な交通網として欠かせない存在となっている。新幹線の駅は、名古屋駅、京都駅のように従来の在来線の中心駅に設置される場合、用地確保、ルート等の観点から従来の在来線の中心駅以外に「新駅」として設置される場合がある。

従来の在来線の中心駅、中心市街地から離れた地域においても、新幹線新駅の設置を契機として、新駅周辺のアクセス道路、駅前広場の整備を含めて、周辺地域を一体的に整備している事例も少なくない。このような基盤整備を通じて、人口増加が寄与する事例もある。メッシュ人口を活用することにより、新駅設置とそれを契機とする基盤整備を通じた人口動態を即地的に分析できる。

ここでは、従来の在来線の中心駅、中心市街地から離れた地域に立地した新幹線駅等を対象に、新駅設置が人口動態に与える影響を分析する。

4.2 新幹線駅の立地による人口動態の分析

4.2.1 特徴的な新幹線駅の抽出

新幹線新駅等の開業を契機とした周辺地域の人口への影響は、駅や地域の事情により異なっており、全ての駅で人口増加がみられたということは必ずしもないが、市全体で人口が減少している時期にも駅周辺で人口が増加している駅も複数みられる。

ここでは、地方圏を中心に、新幹線の新駅を中心に抽出し、特に人口増加率が高い駅について開発経緯と人口動態について分析した。

ここでは、以下の①から③の視点（人口増の背景がより新幹線新駅等の開業によるものであると考えられる視点）を満たすもののうち、特に、新下関駅、新白河駅、佐久平駅、新倉敷駅を選定して、市街地と人口動態を整理する。なお、東広島駅は、広島大学の移転に伴うものが含まれると考えられるため、分析対象から除外した。

- ① 新幹線駅から0～1km、1～2kmの中で開業後人口増加がある新幹線駅
- ② 0～1km、1～2kmともに市全体の増加率以上の人口増加がある新幹線駅
- ③ 従来の中心駅、市役所から一定程度（2km以上）離れている新幹線駅

表 4-1 新幹線新駅等の特性と開業前後の人口動態

新幹線駅 (開業年)	駅の特性 ^{※1}		駅近傍の人口動態 ^{※2}							市全体 時点 1-3 増加率	
	中心駅 からの 距離 km	市役所 からの 距離 km	対象駅 からの 距離	時点 1 の 人口 (人)	時点 2 の 人口 (人)	時点 3 の 人口 (人)	時点 1-3 増加率				
新花巻駅 (1985年)	花巻駅 5.5km	花巻市 5.2km	0-1km	1980	428	1990	457	2000	503	17.5%	旧花巻市 6.0%
			1-2km	年	1,600	年	1,331	年	1,293	-19.2%	
水沢江刺駅 (1985年)	水沢駅 3.7km	奥州市 4.3km	0-1km	1980	1,793	1990	1,802	2000	1,603	-10.6%	旧水沢市 10.4%
			1-2km	年	2,685	年	2,626	年	2,568	-4.4%	
くりこま 高原駅 (1990年)	石越駅 7.9km	栗原市 4.8km	0-1km	1985	806	1995	663	2005	567	-29.7%	旧志波姫町 -3.4%
			1-2km	年	3,372	年	3,563	年	3,455	2.5%	
古川駅 (1982年)	古川駅 0.0km	大崎市 1.3km	0-1km	1980	7,817	1990	8,693	2000	10,219	30.7%	旧古川市 27.8%
			1-2km	年	18,815	年	21,803	年	23,125	22.9%	
新白河駅 (1982年)	白河駅 2.3km	白河市 2.1km	0-1km	1980	2,969	1990	3,809	2000	5,241	76.5%	旧白河市 10.4%
			1-2km	年	12,096	年	13,070	年	14,019	15.9%	
那須塩原駅 (1982年)	黒磯駅 5.5km	那須塩原市 4.0km	0-1km	1980	3,109	1990	3,229	2000	3,476	11.8%	旧黒磯市 26.2%
			1-2km	年	3,068	年	3,323	年	4,163	35.7%	
軽井沢駅 (1997年)	軽井沢駅 0.0km	軽井沢町 3.9km	0-1km	1995	1,813	2000	1,744	2005	1,851	2.1%	軽井沢町 13.9%
			1-2km	年	1,888	年	1,787	年	1,834	-2.9%	
佐久平駅 (1997年)	北中込駅 2.8km	佐久市 3.0km	0-1km	1995	2,557	2000	2,593	2005	3,460	35.3%	佐久市 7.0%
			1-2km	年	11,357	年	12,195	年	12,962	14.1%	
新富士駅 (1988年)	富士駅 1.6km	富士市 2.5km	0-1km	1985	10,304	1995	10,570	2005	10,794	4.8%	旧富士市 15.1%
			1-2km	年	24,047	年	25,390	年	26,796	11.4%	
三河安城駅 (1988年)	安城駅 2.5km	安城市 2.1km	0-1km	1985	9,193	1995	12,280	2005	17,270	87.9%	安城市 34.6%
			1-2km	年	20,702	年	24,362	年	30,410	46.9%	
新倉敷駅 (1975年)	倉敷駅 9.0km	倉敷市 8.8km	0-1km	1975	2,883	1985	3,321	1995	3,170	10.0%	旧倉敷市 7.7%
			1-2km	年	12,216	年	13,662	年	13,543	10.9%	
東広島駅 (1988年)	西条駅 4.9km	東広島市 4.4km	0-1km	1985	837	1995	730	2005	2,190	161.6%	旧東広島市 72.0%
			1-2km	年	1,934	年	3,800	年	4,337	124.3%	
新岩国駅 (1975年)	岩国駅 7.0km	岩国市 6.4km	0-1km	1975	820	1985	849	1995	1,303	58.9%	旧岩国市 -3.3%
			1-2km	年	817	年	1,069	年	876	7.2%	
新下関駅 (1975年)	下関駅 6.7km	下関市 5.5km	0-1km	1975	4,324	1985	6,839	1995	9,856	127.9%	旧下関市 -2.5%
			1-2km	年	8,074	年	15,614	年	21,956	171.9%	
鹿児島 中央駅 (2004年)	鹿児島 中央駅 0.0 km	鹿児島市 2.1km	0-1km	2000	22,387	2005	24,764	2010	26,268	17.3%	鹿児島市 0.7%
			1-2km	年	69,689	年	70,972	年	72,604	4.2%	

※1 距離については直線距離を用いて算出

※2 人口については国勢調査の1kmメッシュ人口の合計

(半径 α km 以内に中心点がある1kmメッシュの人口を合計している。)

4.2.2 代表的な駅の開発経緯と人口動態

(1) 新下関駅

1) 新下関駅の概要

新下関駅は、山口県下関市に立地する 1975 年に開業した山陽新幹線の駅であり、山陽本線が乗り入れる。山陽新幹線の駅設置に伴い、長門一ノ宮駅から改称された。新下関駅は、下関市役所から約 5.5km、下関駅から約 6.7km 離れている。下関市は、山口県西部に位置する都市で、2015 年の国勢調査によると約 26.9 万人の人口を有しており、2005 年からの 10 年間に約 29.1 万人から約 2.2 万人（7.6%）減少している。

2) 新下関駅周辺の都市開発の経緯

新下関駅開業を契機とした周辺整備を目的として、1971 年に新下関駅周辺土地地区画整理事業が決定された。第一期は、施行面積 74.1ha、計画人口 7400 人、第二期は、施行面積 6.5ha であった。第一期、第二期の事業地は、施行面積の約 7 割が農耕地であったが、現在は約 9 割が建物用地として利用されている。^{1)、2)}

新下関駅周辺は、駅直近にはマンションが立地するとともに、県道 259 号新下関停車場稗田線の沿道には、ロードサイド型の店舗が立地する。この他、下関市役所勝山支所、東亜大学等が立地する。また、駅から 500m 程度離れると、戸建ての住宅団地、新下関団地等の集合住宅も立地する。

3) 新下関駅周辺の人口動態

1975 年の新下関駅開業後、新下関駅を中心に人口が増加しており、新下関駅から 0～1km のメッシュでは、1975 年の 4,324 人から 1995 年には 9,856 人まで増加し、新下関駅から 1～2km のメッシュでは、1975 年の 8,074 人から 1995 年には 21,956 人まで増加している。

表 4-2 新下関駅周辺の人口動態

新幹線駅からの 距離 (km)	1975 年人口 (人)	1985 年人口 (人) (1975 年基準増減率)	1995 年人口 (人) (1985 年基準増減率)
0～1	4,324	6,839(+58.2%)	9,856(+44.1%)
1～2	8,074	15,614(+93.4%)	21,956(+40.6%)
2～3	23,239	30,216(+30.0%)	29,850(-1.2%)
3～4	32,915	39,119(+18.8%)	37,374(-4.5%)
4～5	58,408	53,800(-7.9%)	49,751(-7.5%)

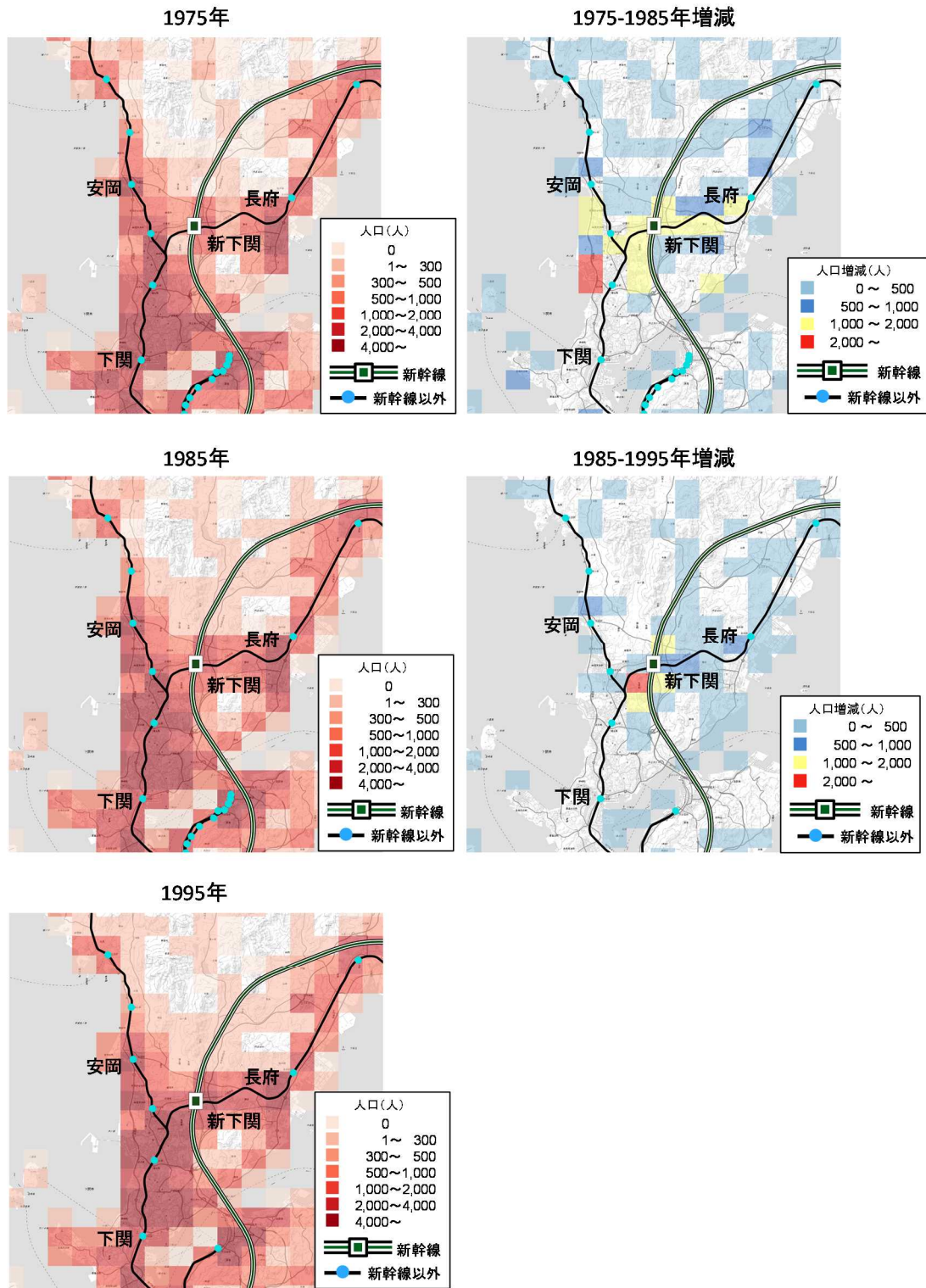


図 4-1 新下関駅 1975 年開業³⁰

³⁰ 以下、図 4-15 までの地図については、1km メッシュ単位で色づけしている。

(2) 新白河駅

1) 新白河駅の概要

新白河駅は、福島県白河市に隣接する福島県西白河郡西郷村に立地する1982年に開業した東北新幹線の駅であり、東北本線が乗り入れる。東北新幹線の駅設置に伴い、磐城西郷駅から改称された。新白河駅は、白河市役所から約2.1km、白河駅から約2.3km離れており、白河市の市街地に比較的近い。白河市は、福島県南部の都市で、2015年の国勢調査によると6.2万人の人口を有しており、2005年からの10年間に約0.4万人(5.7%)減少している。

2) 新白河駅周辺の都市開発の経緯

新白河駅の周辺では、新駅周辺の良好な市街地形成を図るため、1978年に白河市では白河西郷東土地区画整理事業、隣接する西郷村では白河西郷西土地区画整理事業が決定された。両事業を合計すると施行面積110.3ha、計画人口4,500人である。地区の大半が農地であったが、現在は約8割が都市的土地利用となっている。^{1)、3)}

新白河駅の周辺は、東側、西側ともに、土地区画整理事業の区域の中には、ビジネスホテル、駐車場が多数立地しており、1990年には約3,000m²のホームセンターが立地している。また、東側では、土地区画整理事業の区域に隣接する国道289号沿いに1997年以降、大型小売店が集積した地区があり、合計すると約43,000m²となっている。⁶⁾駅からある程度離れると、戸建ての住宅等も立地している。

3) 新白河駅周辺の人口動態

1982年の新白河駅開業後、新白河駅を中心に人口が増加しており、新白河駅から0～1kmのメッシュでは、1980年の2,969人から2000年には5,241人まで増加し、新白河駅から1～2kmのメッシュでは、1980年の12,096人から2000年には14,019人まで増加している。駅から近い地域の人口増加率が高い。

表 4-3 新白河駅周辺の人口動態

新幹線駅からの 距離(km)	1980年人口(人)	1990年人口(人) (1980年基準増減率)	2000年人口(人) (1990年基準増減率)
0～1	2,969	3,809(+28.3%)	5,241(+37.6%)
1～2	12,096	13,070(+8.1%)	14,019(+7.3%)
2～3	14,398	14,704(+2.1%)	14,991(+2.0%)
3～4	10,218	12,220(+19.6%)	12,811(+4.8%)
4～5	4,327	4,309(-0.4%)	5,385(+25.0%)

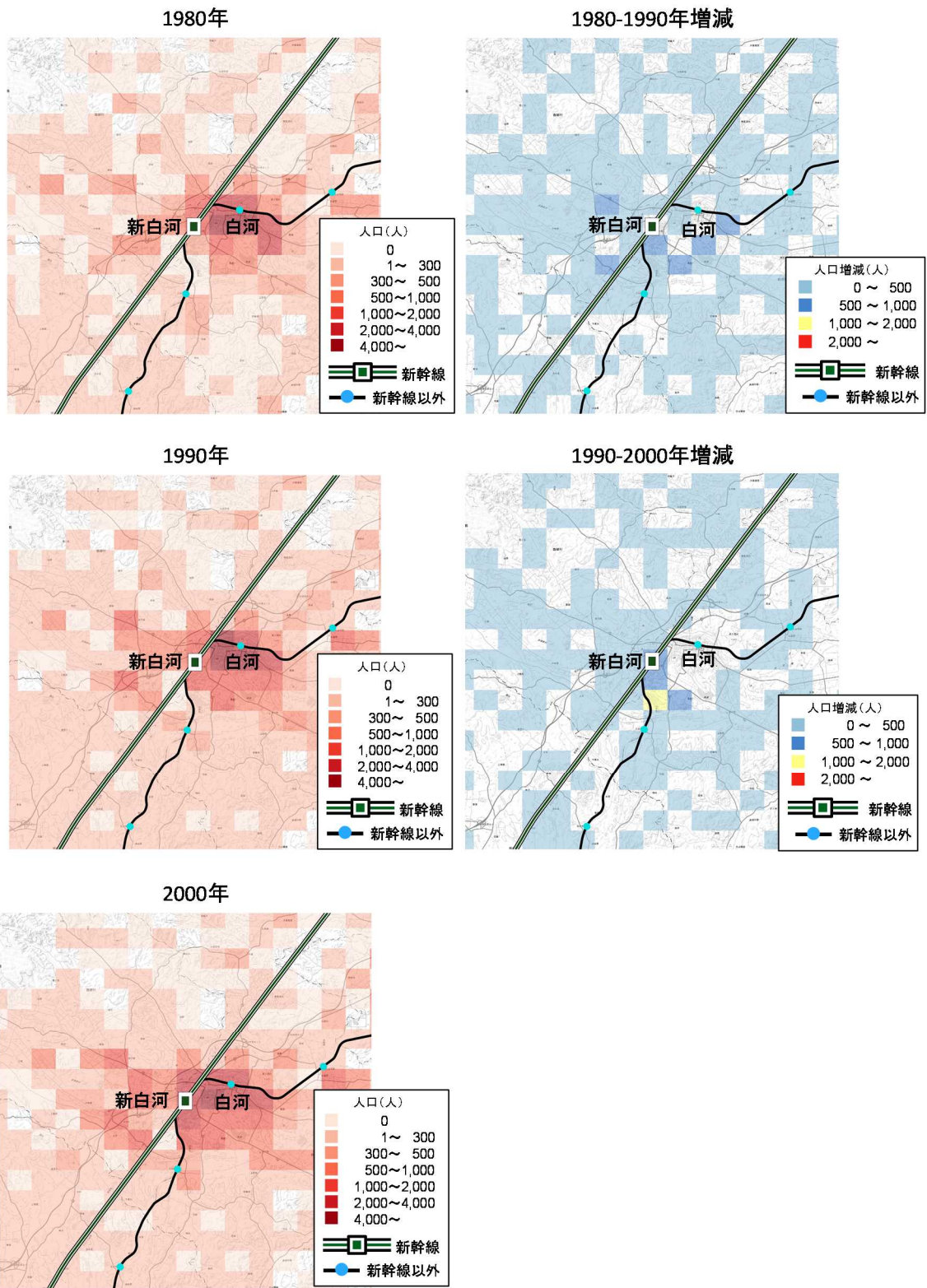


図 4-2 新白河駅 1982 年開業

(3) 佐久平駅

1) 佐久平駅の概要

佐久平駅は、長野県佐久市に立地する1997年に開業した北陸新幹線の駅であり、小海線が乗り入れる。北陸新幹線の駅設置に伴い、小海線に新駅が設置された。佐久平駅は、佐久市役所から約3.0km、佐久市中心部に近い北中込駅から約2.8km離れている。佐久市は、長野県東部の都市で、群馬県下仁田町、南牧村と接しており、2015年の国勢調査によると9.9万人の人口を有しており、2005年からの10年間に約0.1万人（1.0%）減少している。

2) 佐久平駅周辺の都市開発の経緯

佐久平駅は、上信越自動車道佐久ICに近く、佐久平地区を、佐久市の先導的役割を果たす極めて重要な地区として位置づけ、新市街地形成のために、1995年に佐久駅周辺土地区画整理事業が決定した。施行面積は60.0haである。^{4) 5)}

佐久平駅の周辺では、駅直近にビジネスホテルが立地するとともに、駅南側では、30000m²を超える大規模なショッピングセンターを中心に、国道141号を挟んだ両側に大型商業施設が立地し、周辺からも多くの買物客が訪れている。⁶⁾ビジネスホテル、商業施設が立地する地区以外には、戸建ての住宅が立地する地区があり、今でも耕地が残っている地区もある。

3) 佐久平駅周辺の人口動態

1997年の佐久平駅開業後、佐久平駅から0～1kmのメッシュでは、1995年の2,557人から2005年には3,460人まで増加し、佐久平駅から1～2kmのメッシュでは、1995年の11,357人から2005年には12,962人まで増加している。開業後10年間で比較すると新白河駅より人口増加率が若干高い。

表 4-4 佐久平駅周辺の人口動態

新幹線駅からの 距離 (km)	1995年人口 (人)	2000年人口 (人) (1995年基準増減率)	2005年人口 (人) (2000年基準増減率)
0～1	2,557	2,593(+1.4%)	3,460(+33.4%)
1～2	11,357	12,195(+7.4%)	12,962(+6.3%)
2～3	13,076	14,343(+9.7%)	14,233(-0.8%)
3～4	14,388	15,142(+5.2%)	15,287(+1.0%)
4～5	16,249	16,269(+0.1%)	16,139(-0.8%)

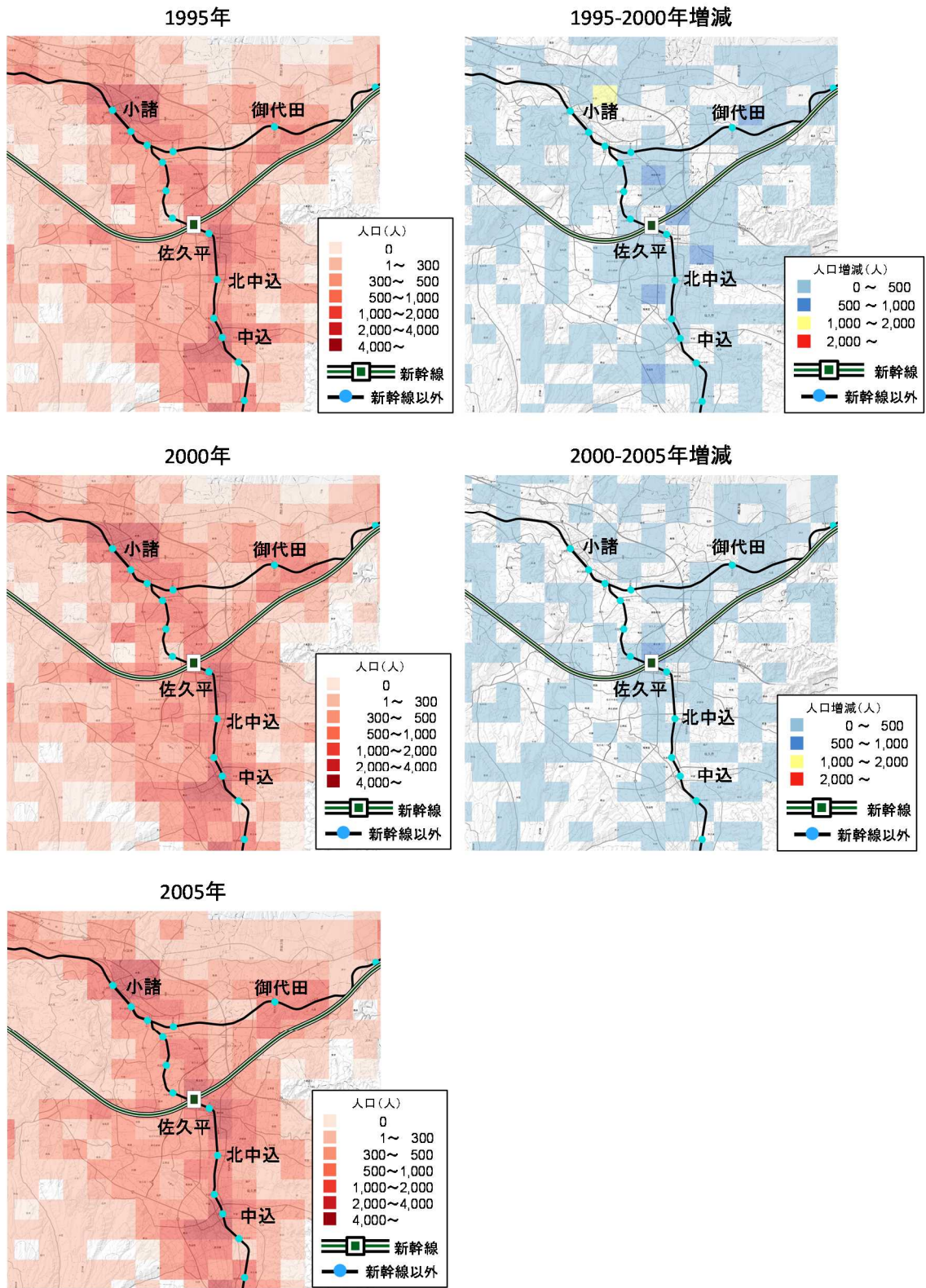


図 4-3 佐久平駅 1997 年開業

(4) 新倉敷駅

1) 新倉敷駅の概要

新倉敷駅は、岡山県倉敷市に立地する 1975 年に開業した山陽新幹線の駅であり、山陽本線が乗り入れる。山陽新幹線の駅設置に伴い、玉島駅から改称された。新倉敷駅は、倉敷市役所から約 8.8km、倉敷駅から約 9.0km 離れている。倉敷市は、岡山県南部に位置する都市で、2015 年の国勢調査によると約 47.7 万人の人口を有しており、2005 年からの 10 年間に約 46.9 万人から約 0.8 万人（1.6%）増加している。

2) 新倉敷駅周辺の都市開発の経緯

新倉敷駅周辺では、駅南部において新駅の開業を契機とした無秩序な市街化の進行を防止し、公共施設を配置し、住宅地と商業地を一体的に整備することによる計画的な市街地整備の観点から 1981 年に新倉敷駅南第一区画土地区画整理事業（26.8ha）が決定され、1993 年に隣接地域で新倉敷駅南第二区画土地区画整理事業（22.8ha）が決定された。⁷⁾

現在では、新倉敷駅から国道 2 号玉島バイパスの間の地区において、新倉敷停車場線の沿道及び周辺に複数の商業施設が立地するとともに、戸建ての住宅も立地する。また、地区内には公園や緑地の整備も行われている。

3) 新倉敷駅周辺の人口動態

1975 年の新倉敷駅開業後、1985 年までは、新駅を中心に人口が増加しており、新倉敷駅から 0～1km のメッシュでは、1975 年の 2,883 人から 1985 年には 3,321 人まで増加し、新倉敷駅から 1～2km のメッシュでは、1975 年の 12,216 人から 1985 年には 13,662 人まで増加している。その後、区画整理事業の進捗により、1995 年までの間で若干減少する傾向にある。

表 4-5 新倉敷駅周辺の人口動態

新幹線駅からの 距離 (km)	1975 年人口 (人)	1985 年人口 (人) (1975 年基準増減率)	1995 年人口 (人) (1985 年基準増減率)
0～1	2,883	3,321(+15.2%)	3,170(-4.5%)
1～2	12,216	13,662(+11.8%)	13,543(-0.9%)
2～3	33,455	26,680(-20.3%)	25,191(-5.6%)
3～4	26,780	25,975(-3.0%)	24,166(-7.0%)
4～5	24,262	27,967(+15.3%)	30,003(+7.3%)

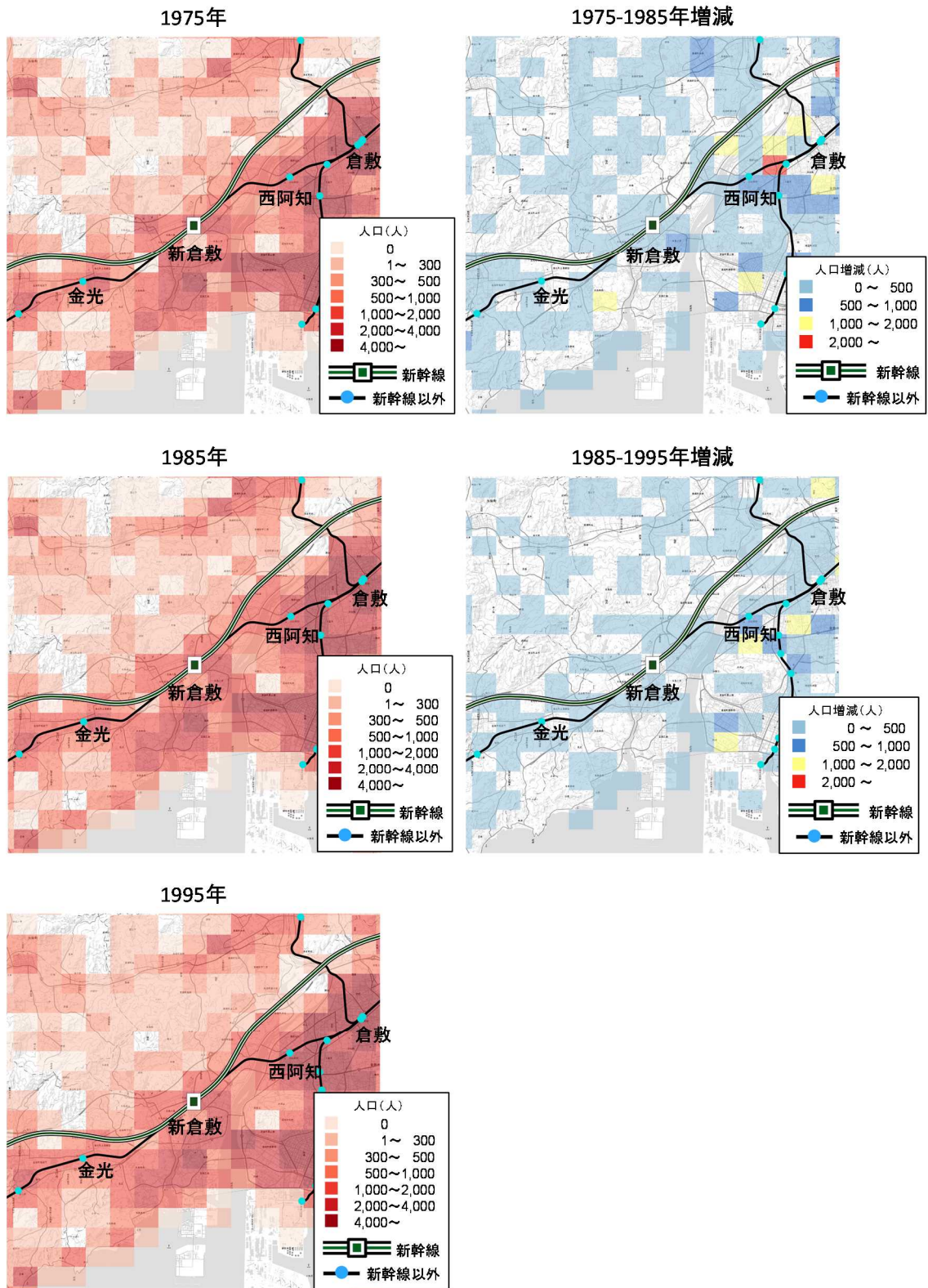


図 4-4 新倉敷駅 1975 年開業

【参考】その他の新幹線新駅等

・三河安城駅（p.96にある視点①～③すべて満たす）

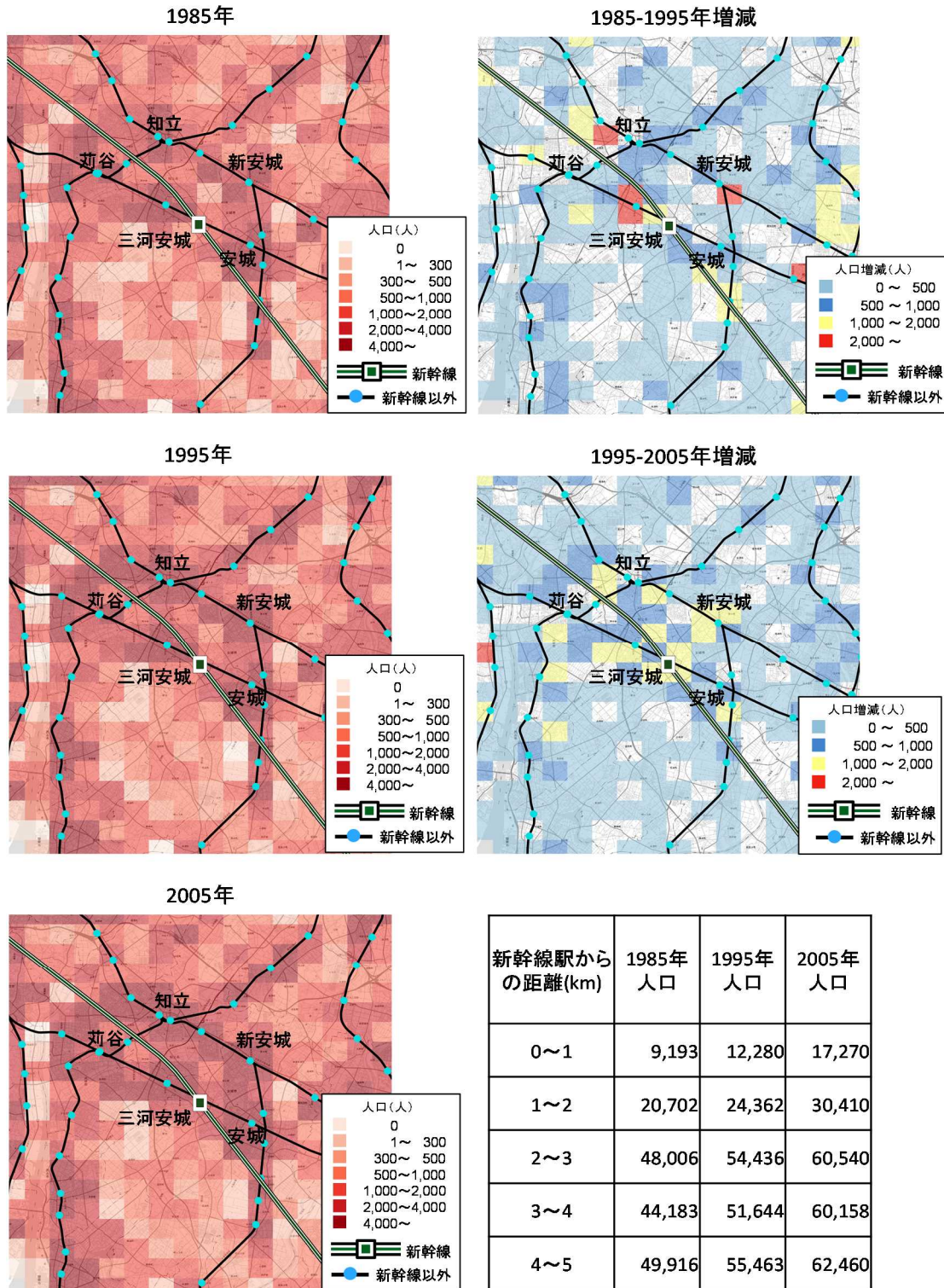


図 4-5 三河安城駅 1988年開業

・東広島駅（視点①～③すべて満たす）

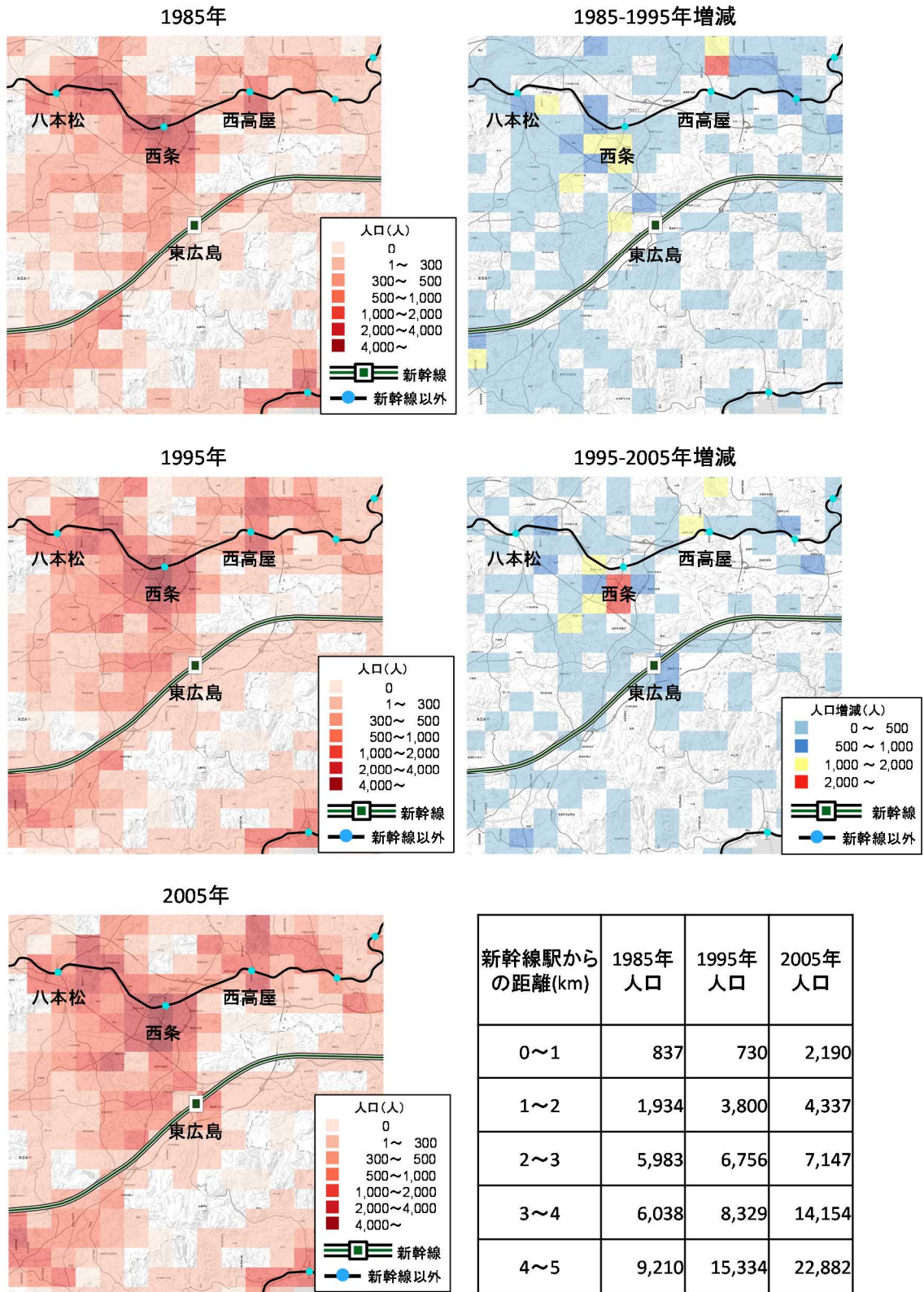


図 4-6 東広島駅 1988年開業

・新岩国駅（視点①～③すべて満たす）

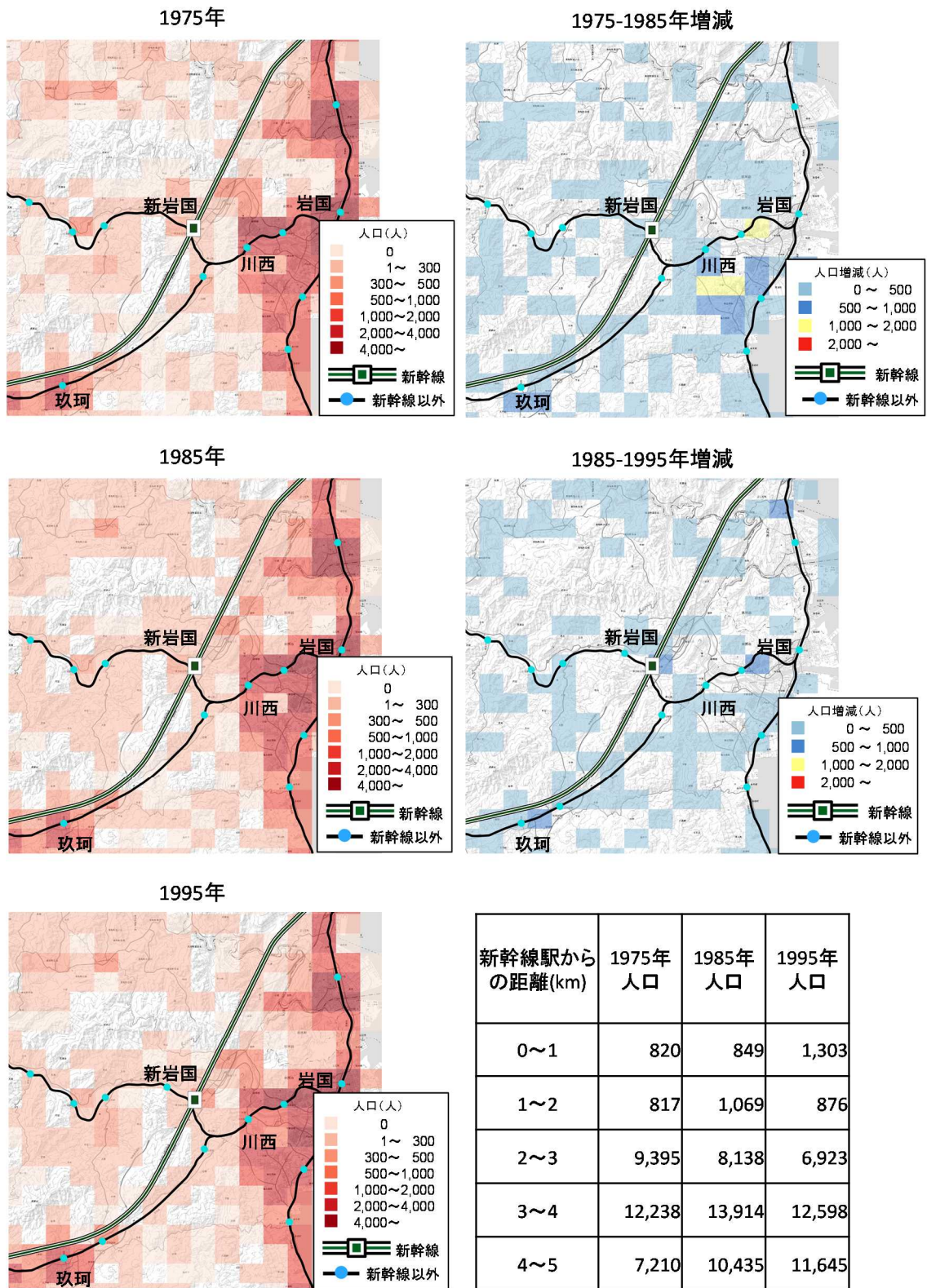


図 4-7 新岩国駅 1975 年開業

・ 鹿児島中央駅（視点③を満たさない）

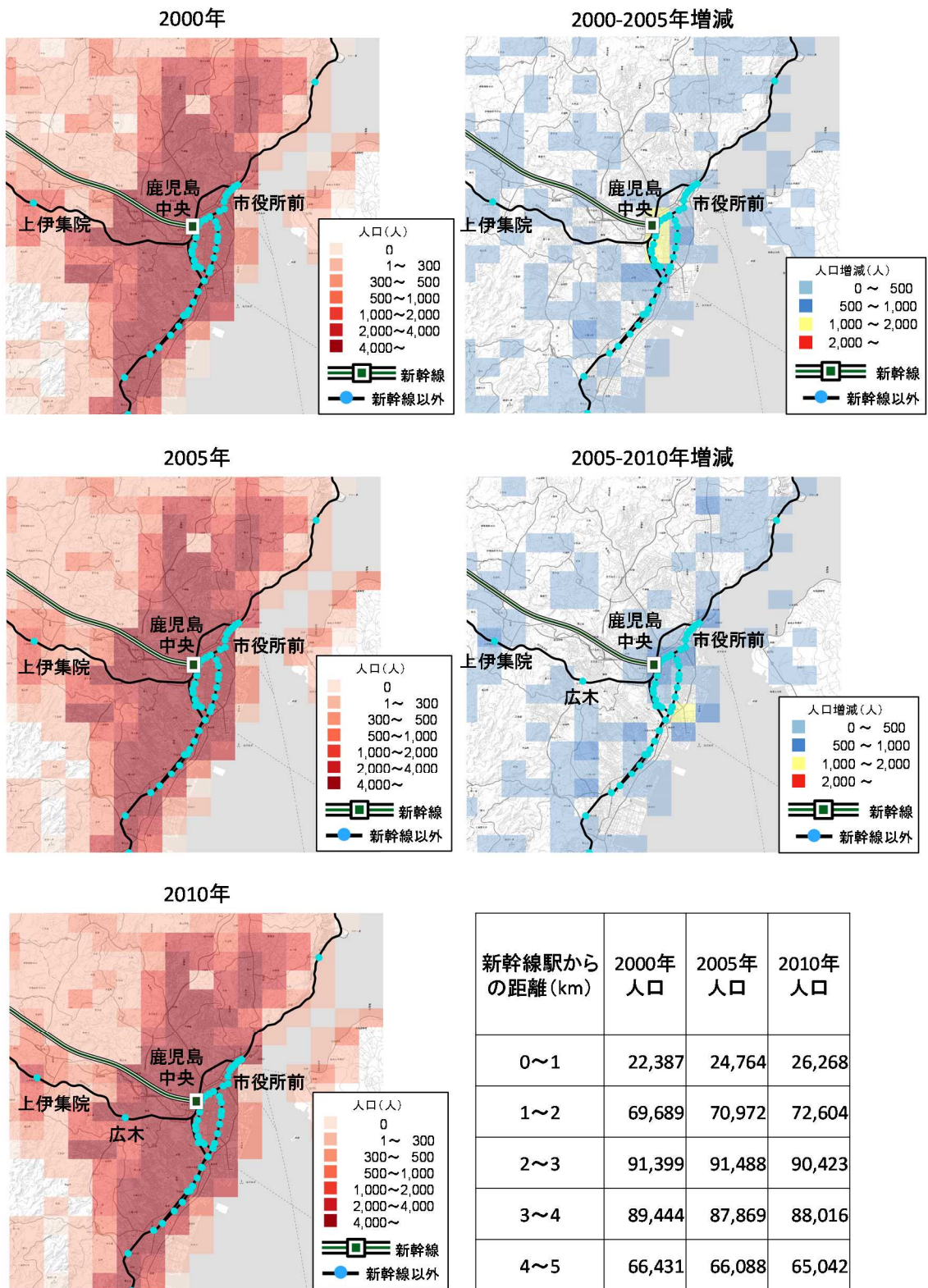


図 4-8 鹿児島中央駅 2004 年開業

・新花巻駅（視点①、②を満たさない）

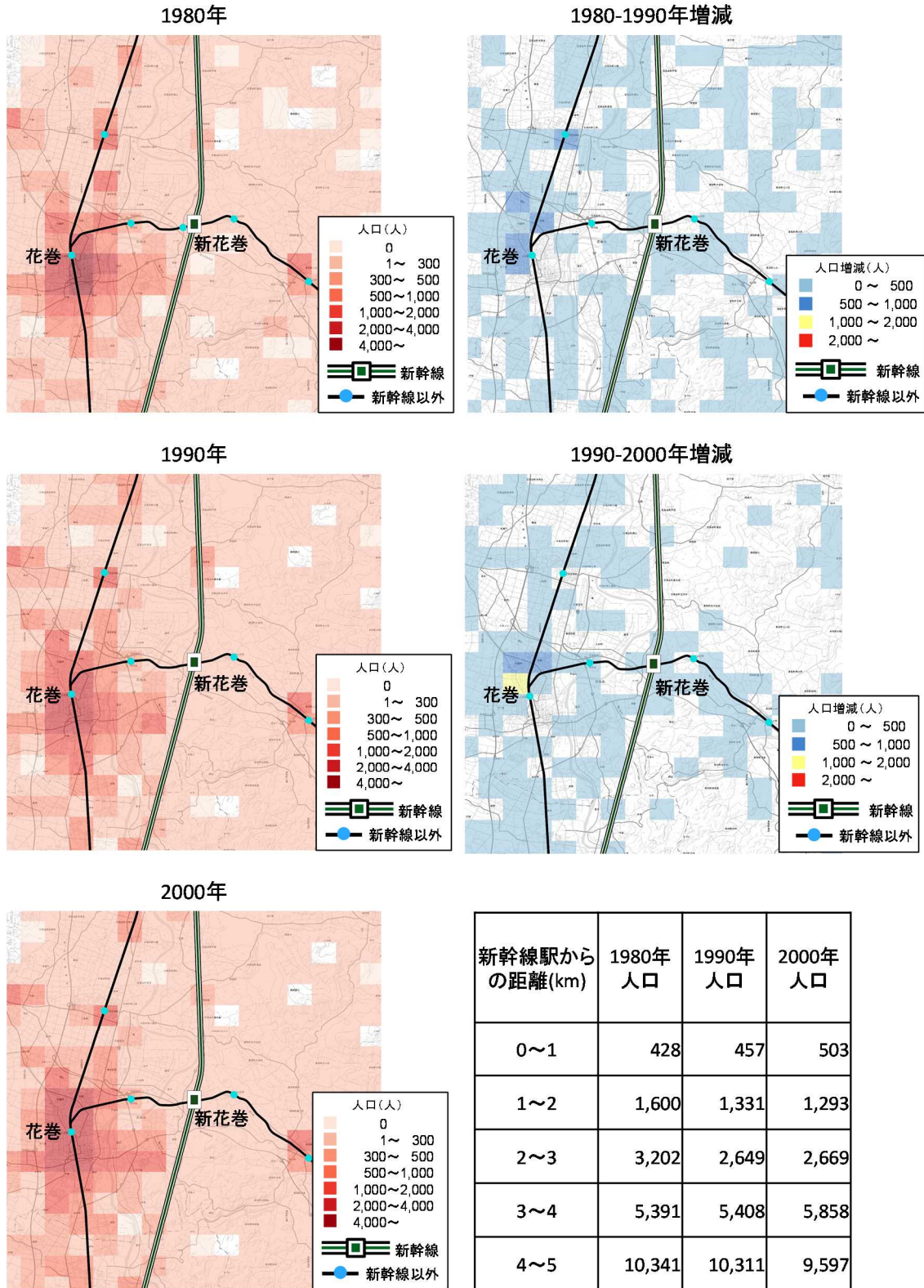


図 4-9 新花巻駅 1985年開業

・水沢江刺駅（視点①、②を満たさない）

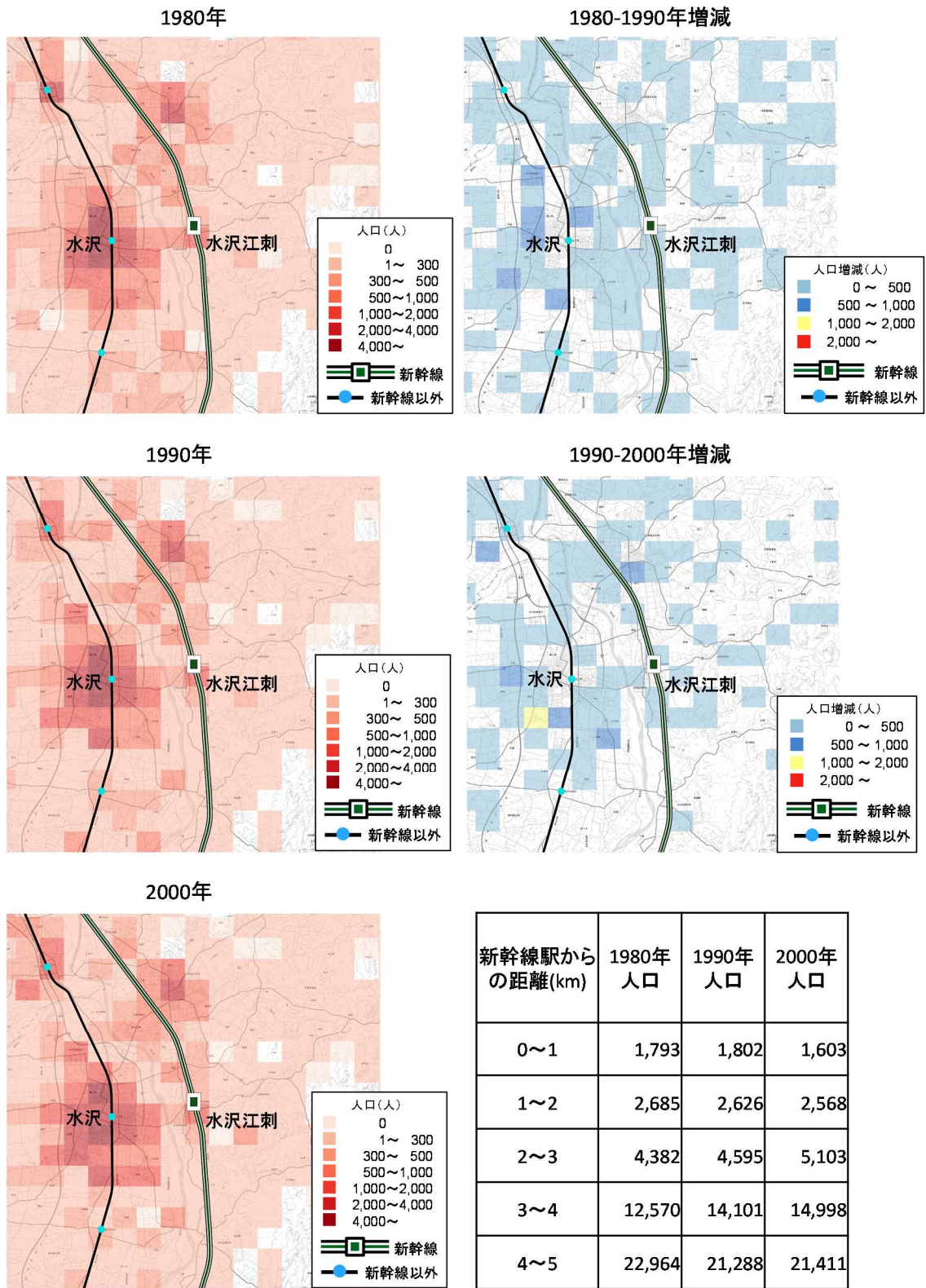


図 4-10 水沢江刺駅 1985年開業

・くりこま高原駅（視点①、②を満たさない）

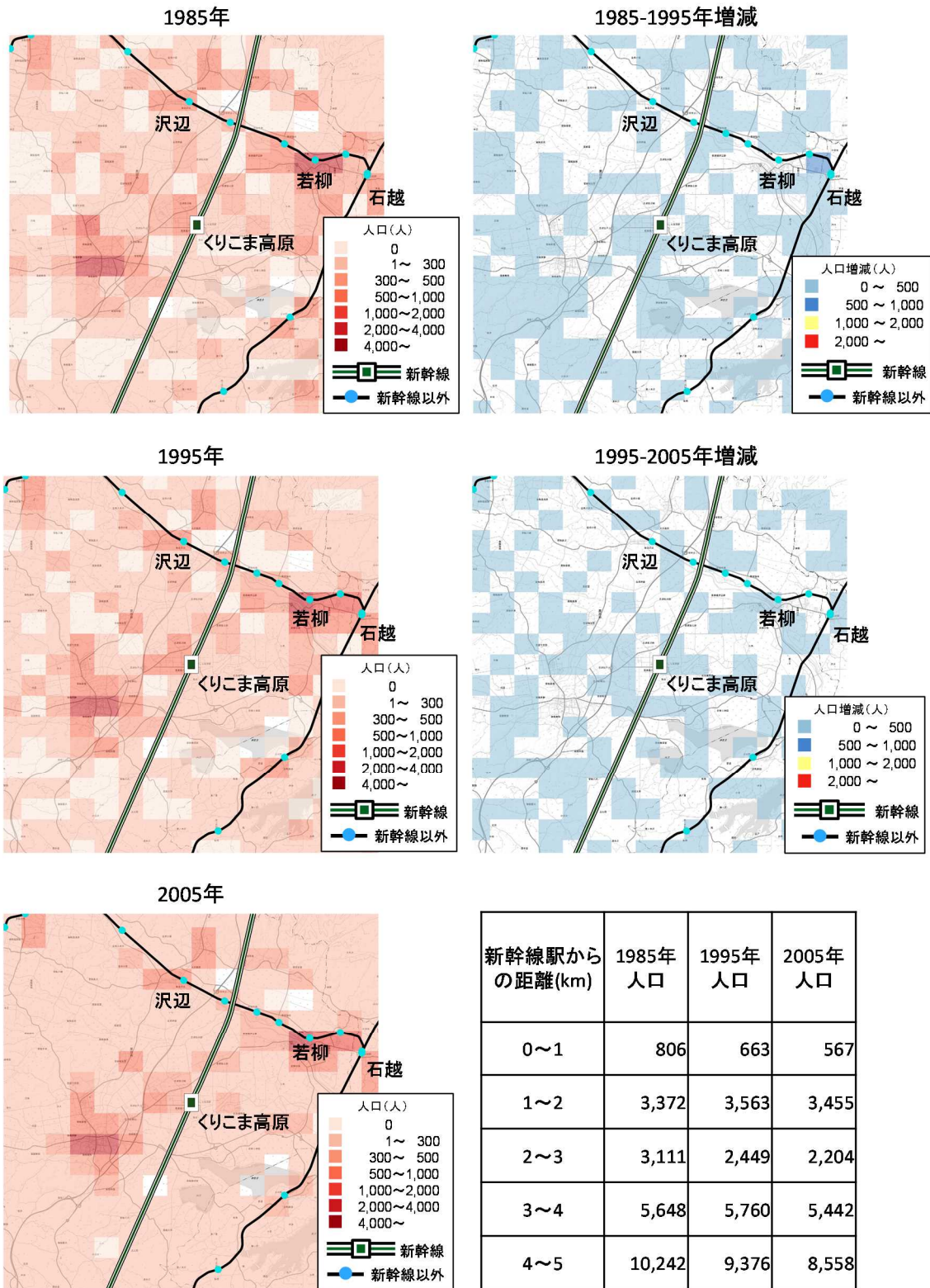
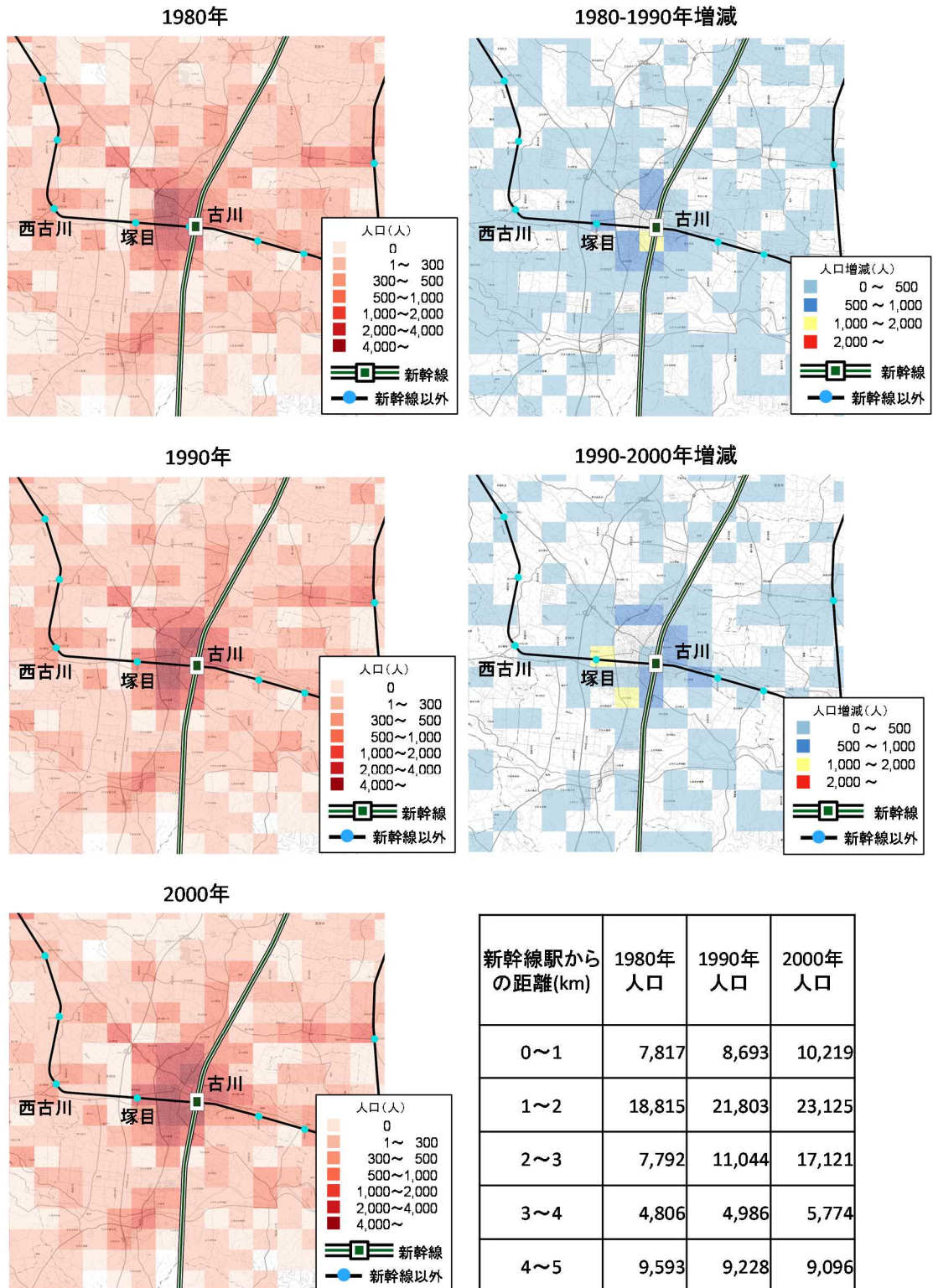


図 4-11 くりこま高原駅 1990 年開業

・古川駅（視点②、③を満たさない）



新幹線駅からの距離(km)	1980年人口	1990年人口	2000年人口
0~1	7,817	8,693	10,219
1~2	18,815	21,803	23,125
2~3	7,792	11,044	17,121
3~4	4,806	4,986	5,774
4~5	9,593	9,228	9,096

図 4-12 古川駅 1982年開業

・ 那須塩原駅（視点②を満たさない）

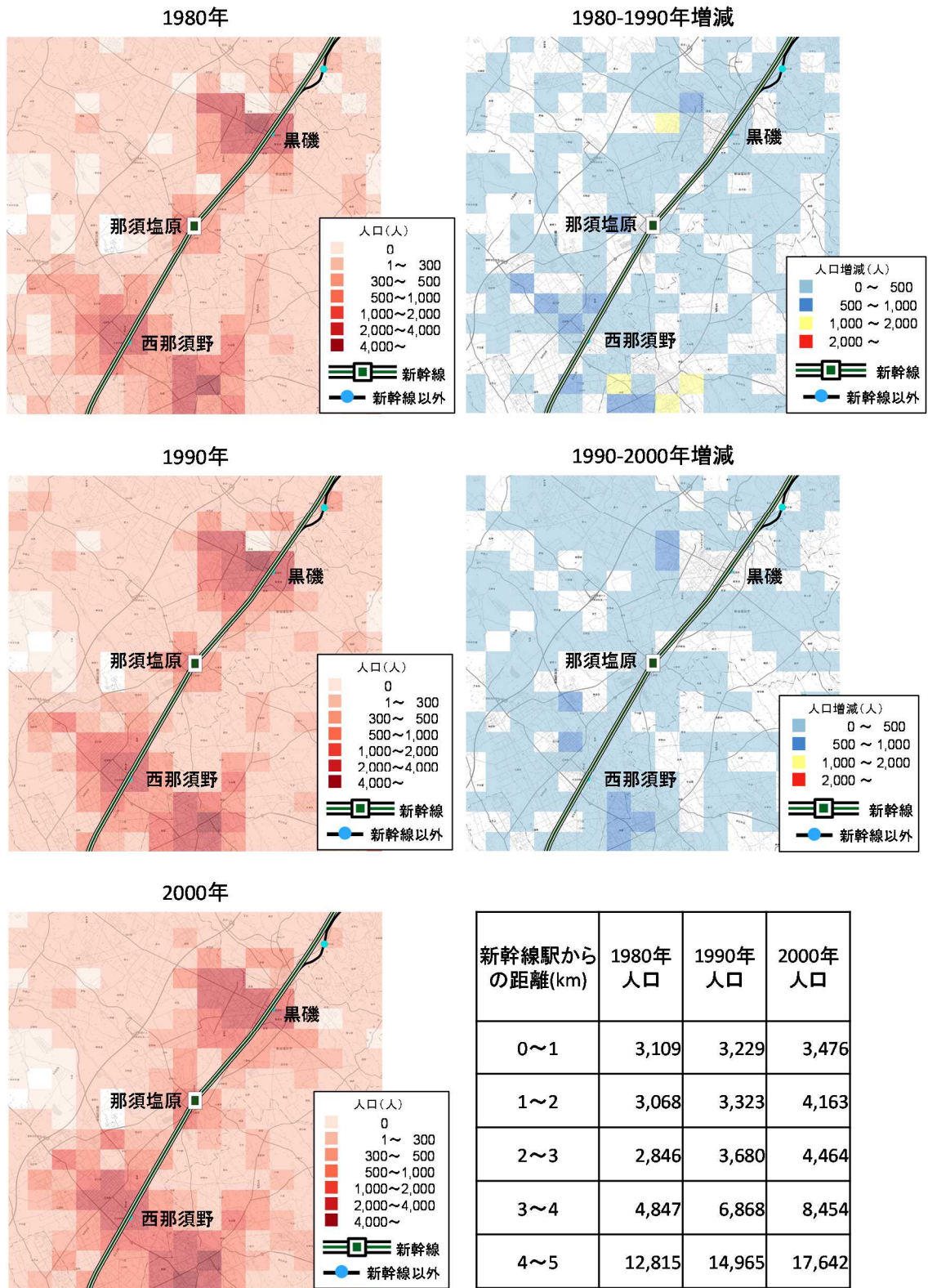


図 4-13 那須塩原駅 1982年開業

・ 軽井沢駅（視点①～③いずれも満たさない）

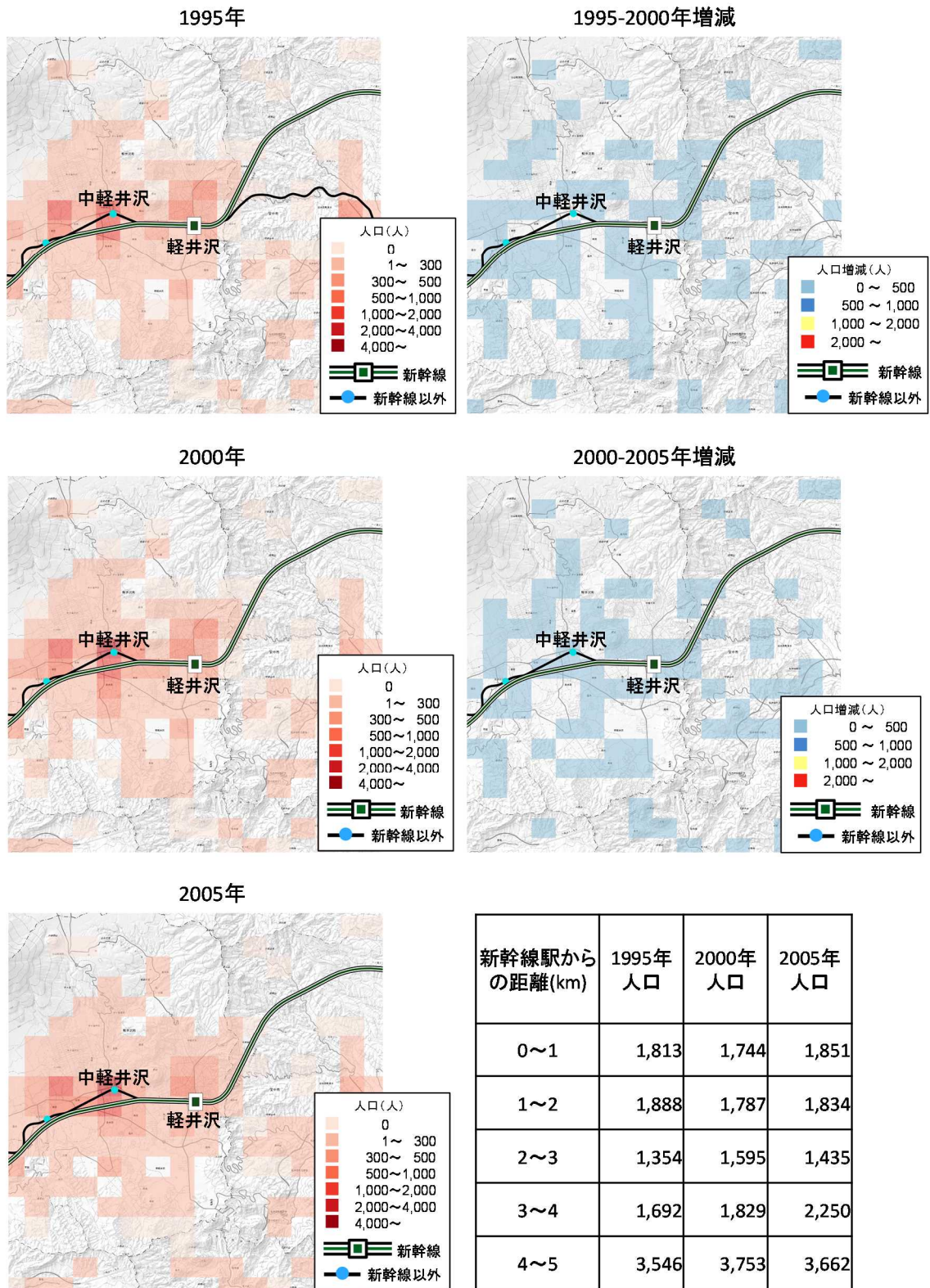


図 4-14 軽井沢駅 1997年開業

・新富士駅（視点②、③を満たさない）

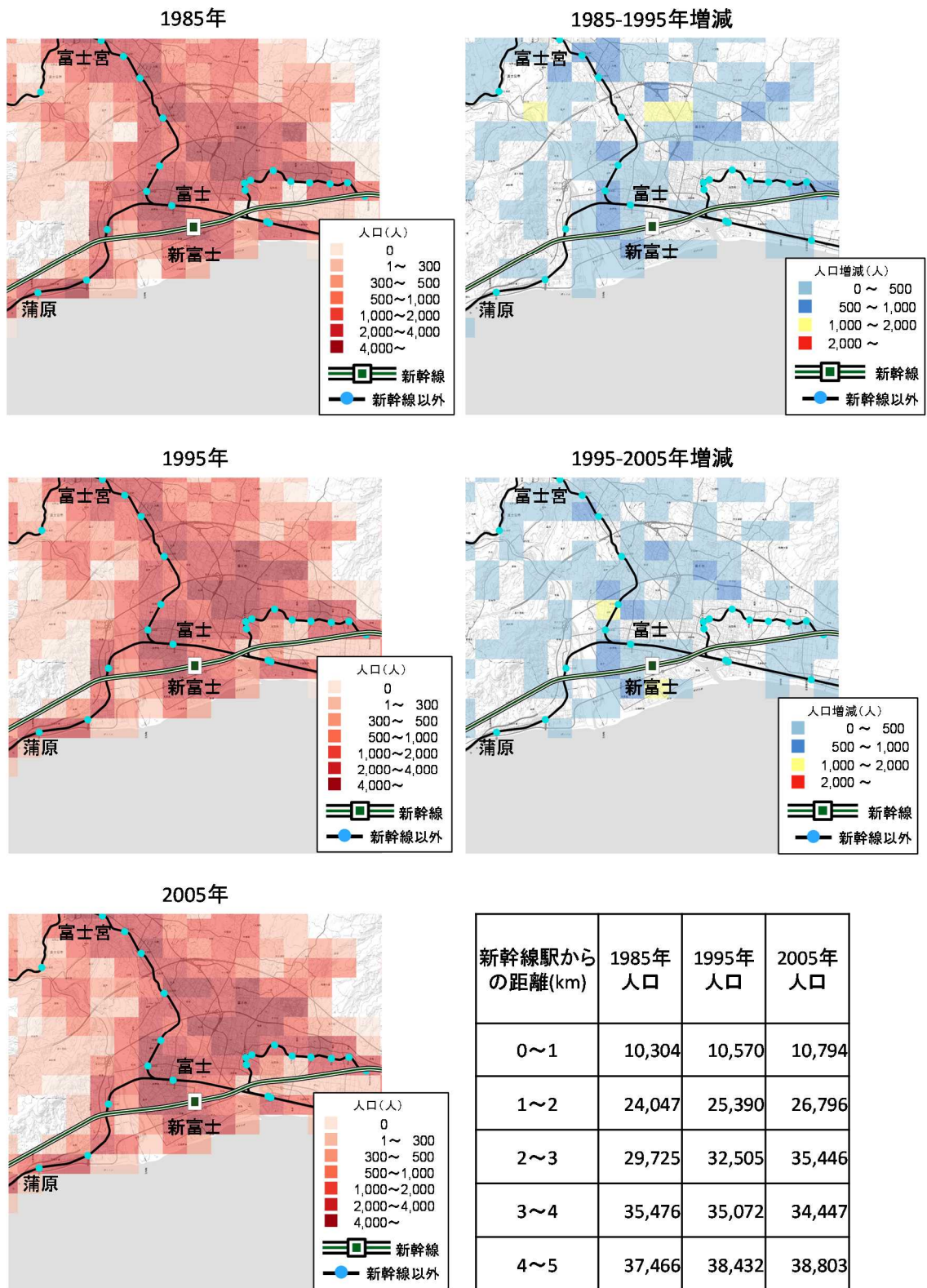


図 4-15 新富士駅 1988 年開業

(参考文献)

- 1) 松本英里・姥浦道生：非中心型新幹線駅周辺の土地利用の変遷と課題に関する研究，都市論文集 Vol.48, No.3, 2013
- 2) 一般財団法人山口県土地区画整理協会ホームページ：山口県の土地区画整理事業
- 3) 公益財団法人福島県土地区画整理協会ホームページ：土地区画整理事業認可実績一覧表
- 4) 伊勢晋太郎・森英高・谷口守：新幹線新駅の周辺一体整備に関する一考察，土木計画学研究・講演集 Vol.46, 2012
- 5) 佐久市ホームページ：佐久駅周辺土地区画整理事業
- 6) 東洋経済新報社：全国大型小売店総覧 2017, 2016
- 7) 倉敷市ホームページ：土地区画整理事業施行箇所一覧